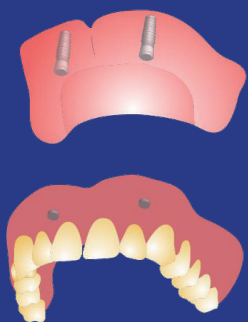


10/20
福岡

インプラントオーバーデンチャーの 基礎理論から臨床応用まで

～総義歯および部分床義歯における磁性アタッチメントの優位性～



小坪 義博 - Yoshihiro Kotsubo -

＜略歴＞

1975年 福岡歯科大学入学
1981年 福岡歯科大学卒業
1988年 こつば歯科開業
2008年 KOTSUBO DENTAL CLINIC 開院
2018年 KOTSUBO DENTAL ANNEX 開院

＜所属＞

・K&N-unity 主宰
・北京雲伝病院歯科部客員教授
・福岡歯科大学咬合修復学口腔インプラント学分野専修生
・NPO 法人 入れ歯でカムカム会理事
・Implant Direct 社インプラントインストラクター
・九州アカデミー学園非常勤講師（衛生士科&技工士科）
・久留米歯科衛生士専門学校非常勤講師
・日本口腔インプラント学会会員
・SJCD 会員・日本磁気歯科学会会員

最近のインプラント治療の普及は目覚ましいものがあります。とりわけ少数歯欠損症例においては、多くの基礎研究や臨床報告に基づいた骨造成法、即時荷重、審美といった点での臨床応用が進み、一方では無歯顎症例や多数歯欠損症例は、特有の条件から義歯の維持や安定が得られず、咀嚼障害に悩んでいる高齢患者が多く見られます。そこで機能回復を図るためにインプラント治療を選択することが進んでいますが、メンテナンスが重要なインプラント治療において、高齢者が容易にメンテナンスができないことは致命的と考えます。そのためにメンテナンスが容易にできるオーバーデンチャーの設計は有効であり、介助の方がメンテナンスをすることになっても安心です。注意点は支台装置であるインプラントを埋入するポジションによって、維持装置の選択に影響が出る事です。粘膜の厚み・骨の形態・幅・高さ、あるいは上顎洞および下顎管などにより埋入位置が制約を受ける場合には、適切な維持装置を選ぶ事が大切になります。これから超高齢化社会を迎えるにあたり、認知症、寝たきりなどの不遇に見舞われる事が考えられ、インプラントの上部構造をシンプルに仕上げる事は介護者にとってもメンテナンスしやすくなると考えます。

インプラントを用いたアタッチメントは義歯の安定を容易にするので、これからの治療法として広く普及して行くと思われます。支持装置としてインプラントを使う事は義歯の安定と咀嚼効率の向上に非常に有効であり、患者のQOLの改善にもつながります。いくつかの方法の維持装置が考えられますが、その中でも磁性アタッチメントは非常に安定度の高い方法であると思われます。

本セミナーでは無歯顎および多数歯欠損症例において、少ない本数で最大限の機能回復を図るための治療計画、手術術式、補綴設計、臨床応用の注意点、メンテナンス等を解説・講義したいと思います。

■開催日 2019年10月20日(日)

■時間 10:00～16:00(受付9:30)

■受講料 歯科医師 10,800円(税込) 昼食込み
歯科技工士 5,400円(税込) 昼食込み

※お申込み後、下記口座に受講料をお振込みください。
※振込み手数料はご負担ください。

西日本シティ銀行 春日支店(普通) 1258878
福翊株式会社

■定員 50名

■会場 アクロス福岡 608会議室
〒810-0001
福岡県福岡市中央区天神1丁目1番1号

■お申込み

福翊株式会社のセミナーページまたは、
下記FAXにて、お申し込みください。

<https://fukusho41seminar.wixsite.com/kotsubo1020>



○ 下記に必要事項をご記入の上、福翊株式会社宛にFAX(092-951-0024)にてお申込みください。

お名前：

医療機関名：

TEL：

住所：

E-mail：

職種： 歯科医師・歯科技工士

振り込み名義：

振り込み予定日：

主催



福翊株式会社

FAX：092-951-0024

問い合わせTEL：092-951-0021